

【演習】

障害特性の理解とプランニングⅡ

－行動援護を利用した外出時の支援の手順書を作成する－

この時間の目的

屋内での日中活動の支援とは異なり、外出時の支援には特有の配慮が必要となります。この時間は、「高崎のぞむさん」が行動援護を利用して外出する場面を想定し、自閉症や知的障害の障害特性に配慮した外出時の「支援の手順書」を作るプロセスを学びます。

【ポイント】

- ① アセスメントや検討した支援計画が「正しい」かどうかを問題にする時間ではありません。
- ② 外出時の支援で特に気をつけなければいけないポイントを押さえましょう。
- ③ 経験の比較的浅いヘルパーに指示を出す際の留意点を整理しましょう。

この時間の流れ



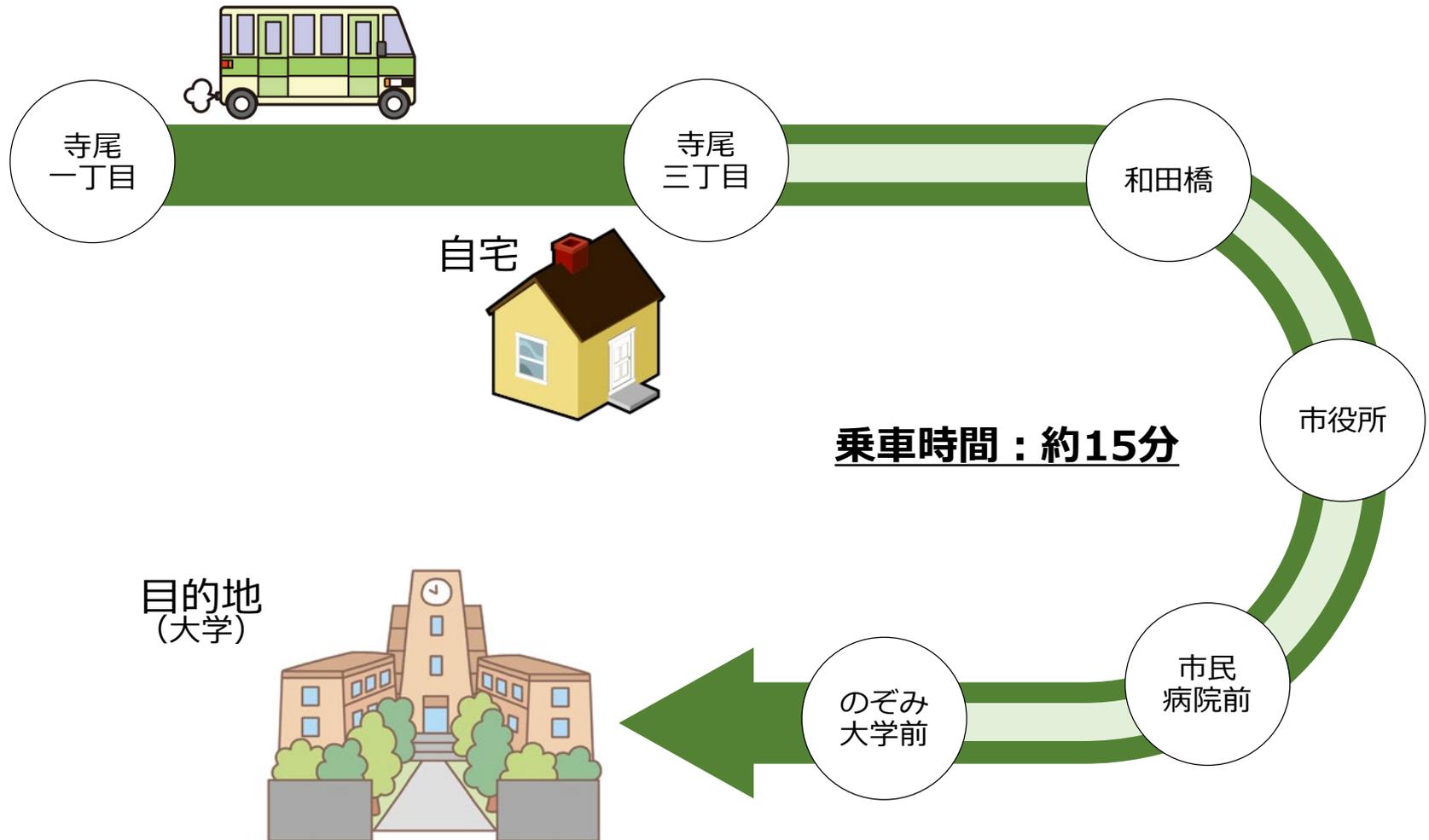
演習①：行動援護を利用した外出時を想定し、4つのプロセスから支援の方法を整理しましょう。

演習②：立案した支援の手順書を、比較的経験の浅い職員に伝えることを想定し、実際に他者に伝えてみましょう。

のぞむさんの休日

- ある天気の良い土曜日の午後のことです。のぞむさんは行動援護事業所のヘルパーと一緒に路線バスに乗って15分くらいのところにある大学構内に散歩に出かけました。
- あまり人のいない静かな構内の散歩道を歩き、学生食堂前にある自動販売機でジュースと小さなお菓子を買う。乗り物好きで食べることも大好きなのぞむさんの、休日のささやかな楽しみです。
- 長年続いていた週末のドライブがお父さんのケガで続けられなくなったのをきっかけに、継続可能な週末の過ごし方を考えようと、この散歩を取り入れてから早2ヶ月が経ちました。
- 毎回、出発時に外出の流れを写真カードを使いながら丁寧に説明していることもあり、のぞむさんもだいぶ慣れたようです。今ではヘルパーが訪問すると、嬉しそうにリュックサックを背負って家から出てくるようになりました。

のぞむさんの外出 | バスのルート



のぞむさんの外出 | 大学の構内



左上：バス停

右上：食堂前の広場

左下：自動販売機

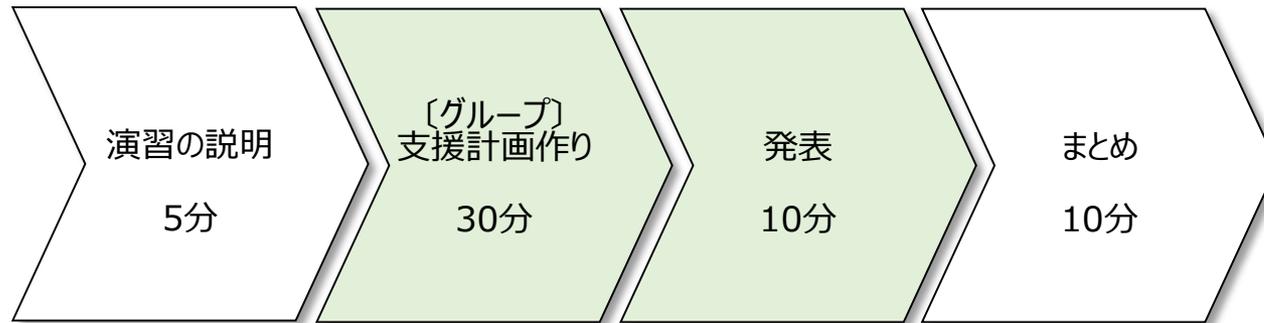
あるヘルパーの悩み

- のぞむさんの外出を担当しているヘルパーにはとても困っていることがあります。それは、のぞむさんが降りる停留所ではないのに降車ボタンを押してしまうことです。
- ボタンを押してしまうと降りずにはられません。仕方なく手前のバス停で降りることになり、混乱するのぞむさんを目の前にして途方にくれたこともあります。
- 今のところ、その場しのぎでボタンを隠したり遮ったりもしていますが、のぞむさんがイライラするだけであまり効果はありません。ただ座って着くのを待つのが苦手なようで、着くのを今か今かと待っている様子も見られます。
- のぞむさんは子どもの声も苦手です。バスの中でうまく過ごせずイライラしているときに、もしバスに小さな子どもが乗ってきたら…。悩む日々が続いています。

演習① | バス内の過ごし方を考える

- テキストに沿って、のぞむさんのバスの中での過ごし方について支援計画を考えましょう。
- 「司会」を①、「発表者」を②「記録」を③の人が行います。

【演習の流れ】



【使用する情報】

1. のぞむさんの基本情報（情報シート P1-P8）
2. のぞむさんの外出について（情報シート P9）
3. スライド「あるヘルパーの悩み」

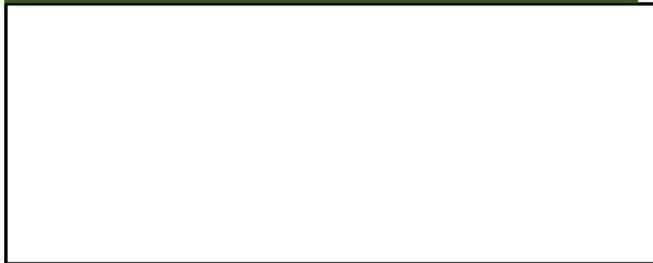
演習① | 4つのプロセスの作成

①～④のステップに沿って、グループで話し合いながら4つのプロセスを作成しましょう。ワークシート（WS-3）を使ってください。

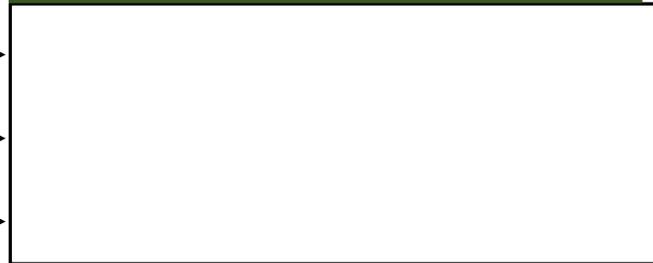
生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 目的地より手前のバス停で降車ボタンを押し、実際にそのバス停で降りてしまう。
- 小さな子どもが乗ってきたときに、声に反応して押す・声をあげる等の行動が出るおそれがある。

①背景の障害特性を推測 | 冰山モデル



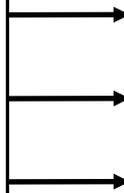
②障害特性を「強み」の表現に変換



③他の場面から「強み」のリスト追加



④「強み」を活かした新たな環境



演習① | 発表とまとめ (20分)

1. 2～3グループに発表してもらいます。
2. 発表者は、4つのプロセスに沿って、どのような結論になったのかを簡潔にご報告ください。

演習① | 記入例 I

生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 目的地より手前のバス停で降車ボタンを押し、実際にそのバス停で降りてしまう。
- 小さな子どもが乗ってきたときに、声に反応して押す・声をあげる等の行動が出るおそれがある。

①背景の障害特性を推測 | 冰山モデル

- いつまで乗っていればよいか分からない（いつまで、どこまで乗るのが分からない）。
- 何もしないで待つことが難しい（車内で待つための方法が用意されていない）。
- 子どもの声が苦手（子どもが乗ってくることが予期できず、静かにしてもらうこともできない）

②障害特性を「強み」の表現に変換

- いつまで乗るのか（先の見通し）が視覚的に示されていれば理解しやすい。
- 好きなことをしていれば30分以上は待てる。
- 落ち着いた声、単語であれば理解しやすい

③他の場面から「強み」のリスト追加

- タイマーの理解ができる
- 家では余暇グッズを使って、余暇を過ごしている
⇒ 短いもので5分、長いもので約50分過ごすことができる。
- 短い、単語での指示であれば理解しやすい

④「強み」を活かした新たな環境

- 乗車後タイマーをセットし（15分）、押してもらう。
- 車中は、余暇グッズを選んでもらい、待ち時間を過ごす（ミニカー、雑誌、CDプレーヤーを準備）。
- 降りる前にタイマーを確認し、「ボタンを押します」と声をかける。

演習① | 記入例Ⅱ

生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 目的地より手前のバス停で降車ボタンを押し、実際にそのバス停で降りてしまう。
- 小さな子どもが乗ってきたときに、声に反応して押す・声をあげる等の行動が出るおそれがある。

①背景の障害特性を推測 | 冰山モデル

- 言葉の理解が難しい（降りるバス停とそうでないバス停の区別が視覚的に示されていない、「押してはダメ」等と否定的な指示が言葉で伝えられている）。
- 何もしないで待つことが難しい（車内で待つための方法が用意されていない）。
- 子どもの声が苦手（子どもが乗ってくるのが予期できず、静かにしてもらうこともできない）

②障害特性を「強み」の表現に変換

- 降りるバス停までの見通しが視覚的に示されていれば理解できる。
- 視覚的に伝えられれば理解しやすい。
- 肯定的で短い言葉（「次ですよ」等）で伝えられれば抵抗なく受け入れられる。
- 好きなことをしていれば30分以上は待てる。

③他の場面から「強み」のリスト追加

- 家では、ヘッドフォンを使って音楽を聞いて過ごしており、お気に入りの曲であれば30分程度は聞いていられる。
- スケジュールでの予定の把握が可能
- 短い、単語での指示であれば理解しやすい

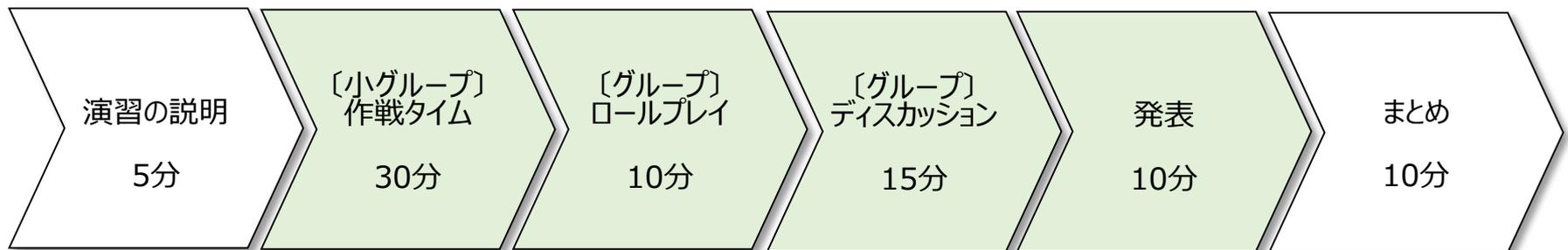
④「強み」を活かした新たな環境

- バス停を通過する毎に「バス停の写真」を剥がしていくスケジュールを作り、視覚的に見通しを持たせる。
- 車中は好きな音楽をイヤホンで聞く。
- 降りるときには、スケジュールの降車ボタンカードを示して、「次ですよ」と声をかける。

演習② | 支援の計画を伝える

- 4つのプロセスから得られた結果を「支援の手順書」にまとめます。
- 3人の小グループに分かれて、役割を決め、「支援の手順」を互いに伝達し合います。

【演習の流れ】



演習② | 作戦タイム (30分)

小グループと役割の確認

1. 奇数の番号の小グループ (①③⑤) と、偶数の番号の小グループ (②④⑥) を作ります。
2. 小グループには、「報告者 (③④)」「ヘルパーA (⑤⑥)」「ヘルパーB (①②)」の3つの役割があります。

支援の手順書を作成し、相手グループへの説明準備

3. 演習①で考えた支援の計画をもとに、「支援の手順書」を作成しましょう。適宜、ワークシート (WS-4) を使ってください。
4. 「支援の手順書」を使って **3分間** で相手グループのヘルパーに説明する準備をします。少なくとも「**根拠を示して**」「**わかりやすく**」の2点には留意しましょう。

演習② | ロールプレイ (10分)

1. どちらの小グループから報告するのかを決めてください。
2. 報告者は、作戦どおりに相手グループのヘルパーに説明をしましょう。時間は3分間です。(タイムキープは講師が担当)
3. 報告を受けた小グループのヘルパーは、報告者に対して質問や確認をしましょう。報告者は質問に対して簡潔に答えましょう。

ヘルパーA：具体的な状況をあげて、トラブルが起きたときの対応について質問しましょう。

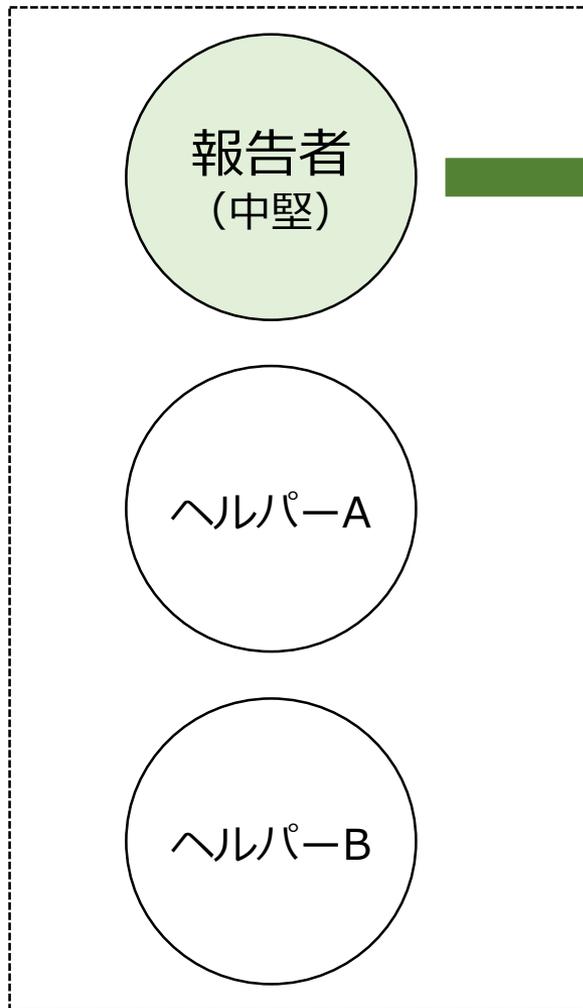
例) 急に腹痛になった時にはどうしたらいいですか？

ヘルパーB：支援の手続きについて整理して、「〇〇ということですね」と確認をしましょう。

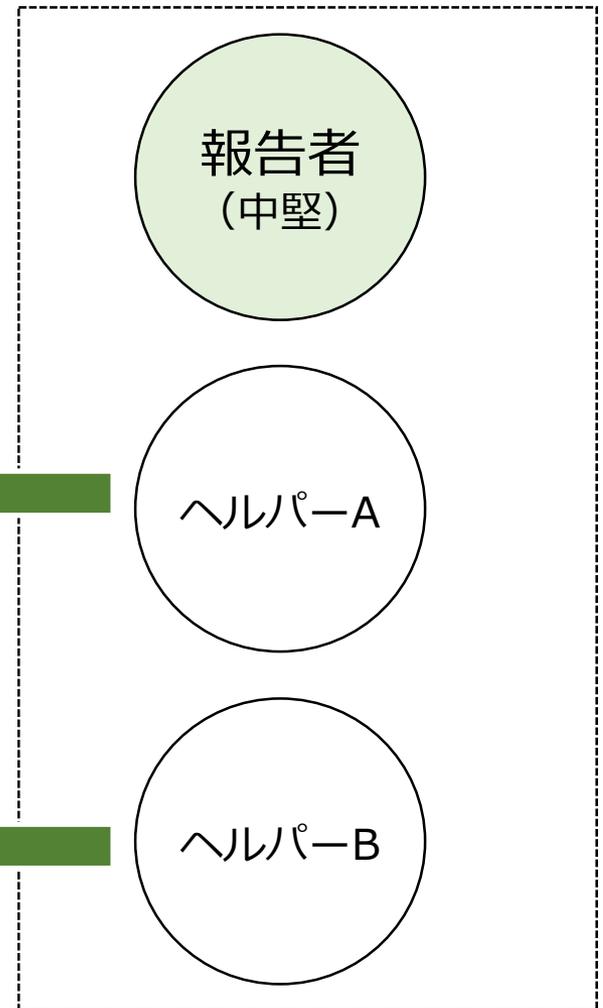
4. 小グループを交代して、同じように1～3を行ってください。

演習② | 支援手順を伝える(3分間)

奇数グループ



偶数グループ



①手順の説明



(③質問への返答)



②予想されるトラブルへの質問等

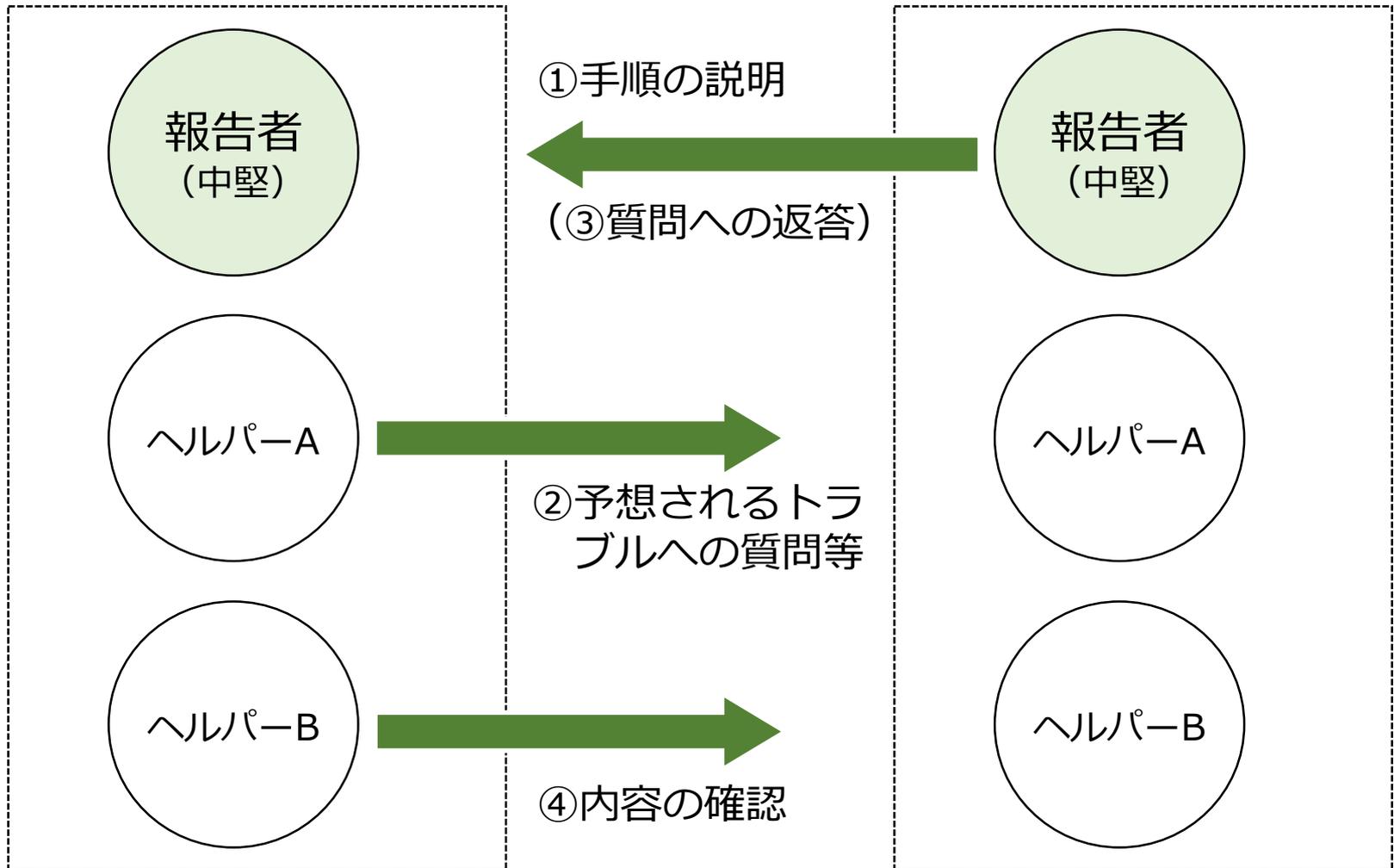


④内容の確認

演習② | 支援手順を伝える(3分間)

奇数グループ

偶数グループ



演習② | ディスカッション (15分)

1. ヘルパー役の人は、相手の説明で「分かりやすかった・良かった点」をあげてください（説明方法）。
2. 報告者役の人は、報告するうえで「難しかった点」をあげてください。
3. もう一度報告するとしたら、どの点を改善するかを考えてみましょう。

演習② | 発表 (10分)

1. 2～3グループに発表してもらいます。
2. 発表者は各グループで話し合われた内容を全体に報告してください。

演習② | まとめ

例えば次のような内容、流れが考えられます。

手順書

- 報告者（サービス提供責任者等）が作成したプランに沿って何回か試し、わかっていること・そうでないことを明確にする。
- 乗車から降車までのステップと、各ステップでの注意点を簡潔に記載する。

※スライドに出す例示は、昼休憩時に会場後方の机に準備しておきます。必要な方はお持ち帰りください。

演習② | 手順書の例 1

時間	活動	サービス手順	メモ
14:00	待機	【スケジュール 2 : バス停で待つ】	
14:05	乗車	【スケジュール 3 : バス乗車】 1. 乗車する 2. 降車口に一番近い 2 人掛けの座席に座る 3. 座ったら「しゅっぱつ」のカードをはがしてもらい、音楽を聞き始める ☆これがスケジュールのスタートの合図です。忘れないように！ ☆スケジュールはのぞむさんに見えるところに置く 4. 途中のバス停を通過するごとに、そのバス停のカードをはがしてもらう ☆のぞむさんが見て自分ではがさないと、バス停を過ぎたことを意識できません。 ☆必ず、のぞむさんがスケジュールを見ていることを確認する！ 5. のぞみ大学に到着する手前で、軽く肩を叩いて「だいがく」カードを指差して見せ、はがしてもらう ☆自分でプレーヤーを止めて降車準備ができます 6. 降車する	
14:20	降車	【スケジュール 4 : バス停～のぞみ大学】	

【緊急事態のとき】

- のぞむさんが不穏な状態（ウーウー唸り声をあげる、床をドンドンと踏み鳴らす）になったときには、各ヘルパーの判断で途中下車させてください（スケジュールは隠してヘルパーがボタンを押します）。
- 体調が悪いときも同じです。

【気をつけておいてほしいこと】

- これまでのところ、どのバス停でも停車して人が降りています。もし、誰も降りずにバスが通過することがあったら、スケジュールを使っても混乱するかもしれません。

【記録】

- うまくいかないステップがあれば、メモ欄にそのときの様子を簡単に書いておいてください。

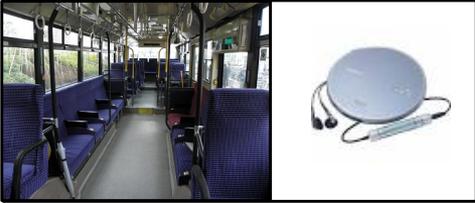
演習② | 手順書の例2

時間	活動	サービス手順		メモ
		本人の行動	援助者	
14:00	待機	【バス停で待つ】 1. 徒歩で「寺尾三丁目」到着		
14:05	乗車	【バス乗車】 1. 乗車する 2. 降車口に一番近い2人掛けの座席に座る 3. 「バスにのる」カードを裏返し、「音楽をきく」カードを確認 4. プレーヤーを使って音楽を聴く 5. バス停を通過するごとに、バス停チェック表にチェックを入れる 6. 「市民病院前」をチェックしたら「音楽をきく」カードを裏返す 7. プレーヤーを止めて降車準備 8. 「のぞみ大学前」で降車する 9. 「バスをおりる」カードを裏返し「さんぽ」カードを確認	「スケジュール」と声かけ(「バスにのる」を確認) ①見守り ②声かけ「スケジュール」 「バスにのる」裏返すを促し「音楽をきく」を確認 バス停チェック表が見えるところに置く 声かけ「○○バス停、チェック」 声かけ「スケジュール」 「音楽をきく」終わりを促す ①見守り ②声かけ「スケジュール」 「バスをおりる」を確認 ①見守り ②声かけ「スケジュール」	
14:20	降車	【のぞみ大学散歩】		

演習② | 手順書の例 1 - 2 のスケジュール

バスで移動

バス停チェック表

  和田橋

  市役所

  市民
病院前

  バスの
ボタン

演習② | まとめ

例えば次のような内容、流れが考えられます。

説明

- 1回目は報告者が引き継ぎのヘルパーと一緒に同行して、支援の手順を実際に示す。
- 可能であれば、実際に使用する支援のツール（ex.スケジュールやタイマー、余暇で過ごす物、等）を使ってモデルを示すことで、よりイメージを持ちやすくなる。
- 手続きを決めた理由と、その通りにやる重要性、緊急時対応、留意点、記録等について補足の説明をする。

まとめ | (外出時の) 支援のポイント

【外出で失敗しないために】

- 障害特性や本人の行動特性に配慮した事前準備を念入りに
- 常に先手の支援で行動障害の予防
- 本人の疲労度に配慮 → 疲労に起因する行動障害
- 次回の外出に対するモチベーションに配慮
- 日常生活に戻るまで支援は終わらない

etc.

まとめ | 伝えるときのポイント

【手順書と説明のチェックポイント】

- 手順はシンプルか（対応が細か過ぎたり、手順が複雑すぎないか）
- 課題となる行動への対応方法が具体的に伝えられているか
- なぜそのような方法になったのかという意味（理由）が伝わっているか
- 本人の行動と支援の流れが整理されているか
- 記録の内容と方法が決められているか
- 2人で付くときの役割分担が決められているか

etc.

まとめ | 大切なポイント

- 対象者の障害特性や環境要因を考慮し、支援の手順書を作成する
- 直接支援を行うヘルパーや支援者に、正確に手順書の内容を伝える（相手が理解できるように伝える）

**支援の手順書を作成することがゴールではなく、
直接支援する人たちに分かりやすく伝えること、
それが私たちの仕事（求められていること）です**